

—— いちよう小学校の幼・保・小 連携事業 ——

テーマ 「子どもたちの育ちや学びの連続性」

～安心した生活習慣づくりのために～

上飯田幼稚園・明成幼稚園・北上飯田保育園・

いちよう保育園・YMCAいずみ保育園・いちよう小学校

1. 推進テーマについて

(1) 設定の理由

いちよう地区には、外国籍または外国につながる子どもが比較的多く生活している。その子どもたちも幼稚園や保育園に元気に通園したり、小学校、中学校に通学したりしている。幼稚園や保育園では、日本の子を含め、日本語でコミュニケーションをとることが多く、ことばの獲得が大切になっている。

また、学習指導要領の改訂に伴い、言語活動の充実が求められるようになってきた。そこで、年齢相応の語彙の広がりや正しい日本語の獲得が大きな課題となっている。

子どもが楽しく心豊かに、充実した毎日を送るためには、一人ひとりの子どもの語彙を多くすることも大切であると考えている。そこで、読書活動を通して、いちよう小学校と交流の深い5園が連携して、子どもの成長を支えていきたいと考えている。

(2) 推進内容

幼保小連携を推進する上で、子どもの発達を知ったり、この地域の子どもの特色を改めて見直したりして、課題を整理した結果、伝え合う力を育てたり、心情を豊かにしたりするために効果的と考えられている読書活動を柱に取り組むことにした。

◇担当者会 いちよう地区の取り組みについて

- ・幼保小の連携のあり方(スタートカリキュラムの見直し)
- ・子どもたちの育ちや学びの連続性(同じ絵本を置く)
- ・多文化共生の取り組み
- ・語彙の獲得(絵本の読み聞かせ)
- ・プレスクールの試行(学校施設を活用して)

◇絵本の読み聞かせ

- ・泉図書館の司書の協力を得て
- ・ボランティア委員会の子が保育園を訪問して
- ・園と学校が同じ絵本を揃えて



◇子どもの交流と学校施設の活用

- ・教室や芝生、遊具等の活用
- ・運動会等の会場使用
- ・プレスクールでことばの学習



(3) 推進経過

- 5月 第1回推進委員会
- 6月 担当者連絡会（読書活動について）
- 7月 担当者連絡会（図書について）
- 9月 運動会関係の交流（いちょう小）
- 10月 運動会関係の交流（各幼稚園・保育園）
- 11月 外国籍および外国につながる家庭への説明会
（区役所と連携して北上飯田保育園）
就学時健康診断
- 12月 生活習慣の改善（早寝・早起き・朝ごはん）計画
担当者連絡会（読書活動について）
プレスクール（ボランティアの協力）
- 1月 教育フォーラム資料づくり
園児、児童の交流開始
- 2月 生活習慣の改善（食育）＝PTAとの連携
絵本の読み聞かせ（保育園訪問）児童による
新1年生学校説明会
- 3月 小学校教職員の幼稚園・保育園訪問
園児、児童の交流



2 連携推進事業の実際

(1) 読書活動

- ・絵本の読み聞かせ

いちょう地区は、小さいうちから子どもをあずけて働いている家庭が多い。労働時間も長時間勤務の方が多く、子どもと関わる時間が少ない現状がある。外国につながる子どもが70%以上在籍するいちょう小学校の家庭内言語を調べると、母語や日本語混じりの母語が90%を超えていることもあり、日本語の語彙が少ない。こうした背景から、ことばからイメージを広げることがあまり得意でない。そこで、ことばの広がり、目の前の子どもの発達に役立つと考え、本に親しむ活動を進めることにした。

本を読むと、「0歳児は言葉を聞いている」といわれている。子どもにしっかりと話しかけることはとても大切で、このことは子どもの成長と語彙の獲得に影響があると考えられる。

これらのことから「読み聞かせの1つとして、絵本を…」を合い言葉に、各園と学校で年齢に合わせた本の読み聞かせを進めることにした。（同じ絵本を活動費の中から絵本を購入）

また、園児と児童の交流会のときにも、学校施設の見学に止まらず、保育士さんや教員、児童の絵本の読み聞かせの活動を取り入れ、本に親しむ機会を増やした。

・図書の選定

絵本の選定については、これまでの研究資料を参考にしたり、泉区の図書館司書の方のご助言をいただいたりしながら、子どもの成長に合わせたものにした。

また、保育園・幼稚園にある絵本が小学校にあることにより、その本を手にする機会が増えたり、入学して直ぐの不安が多い時期に、子どもが安心できることもあり、連携する全ての園と小学校で同じものを揃えた。

(2) 学校施設の活用

園児が学校来るとその規模や施設に驚くことが多い。やがて入学してくる子どもたちが、安心して生活できるように、学校の施設を日常的に活用し、子ども同士が顔見知りになったり、施設に慣れたりすることで、安心して小学校生活がスタートできるようにしたい。



・幼稚園・保育園の運動会を小学校で…

幼稚園・保育園に比べて比較的いろいろなものが大きく、教室や廊下、階段、流し場、トイレなど、新1年生になったばかりの子どもには驚くことが多い。そこで、交流時の学校探検だけでなく、幼稚園や保育園に比べて大きな校庭を運動会等で利用してもらう中で、子どもたちに小学校の広さや施設の大きさにも慣れてもらうことをねらって、積極的に利用してもらうようにした。ただ、土休日の小学校は、地域の方が学校施設開放事業で有効活用していることもあり、地域行事と重ならないように日程調整していく必要がある。

・プレスクール

子どもも保護者も、幼稚園・保育園と小学校の違いに戸惑うことがある。特に、初めて小学校に入学させる家庭で、しかも、日本の教育を受けていない外国につながる家庭の人にとっては、この戸惑いは私たちが想像するよりはるかに大きいものがある。合わせて、家庭内で母語を使っている子どものことばの力にも心配がある。

そこで、11月に「外国籍および外国につながる家庭への説明会」を区役所と連携して北上飯田保育園で行った後、地域のボランティア団体と連携して、学校施設を使って、プレスクールの試行している。その大きなねらいは、学校に慣れてもらうことがあり、続いて、子どものことばの力がどのくらいあるのかを事前に知ることもある。また、保護者にも学校での生活を知らせることで、安心して入学を迎えられるようにと考えている。

(3) 交流

・ボランティア委員会の児童が保育園児に「読み聞かせ」

5年生6年生のボランティア委員会の子どもが、今年度の取り組みとして発案し、検討した結果、保育園の園長先生のご理解を得て実現した。

委員会の児童にとっては、読書活動の活躍の場が広がったよさと、園児の前で読むために、「はっきり、ゆっくり、大きな声で、気持ちを込めて」読むことができ、自信につながった。また、園児にとっては、これから入学していく小学校の大きなお兄さんお姉さんと交流することができ、小学校に対する親近感がわいた。

- ・手作り絵本を作って、1年生が「読み聞かせ」

小学校では、相手に分かり易く読む力をつけていきたい。そこで、幼保小の交流では、今まで大型絵本を使って、低学年の子どもが園児に読み聞かせを行ってきた。今年はそれを一歩進めて、自分たちで大型絵本を作って、園児に読み聞かせることにした。読むだけではなく、絵を描いたり、文字を書いたりすることにより、絵本の内容をしっかりと捉えることができた子どももいた。合わせて、園児に読み聞かせることで、自信をもった子どもが多かった。

- ・手作りカルタで一緒にゲーム

保育園との交流では、園児が作ったカルタを小学生と一緒に楽しんだ。園児は自分たちが作ったカルタということもあって、小学生に勝つことができ、モチベーションも高かった。小学生も勝ち負けより一緒に楽しんだことや施設を案内することで、お兄さんお姉さんとしての意識を高くもつことができた。



※ 早寝・早起き・朝ごはん

昨年度は保護者啓発の一つとして、保育園の子どもに人気のある、しかも栄養バランスの良く、短時間で調理できる「朝ごはんのメニュー」を小学校のPTAと連携して作った。

また、外国籍および外国につながる家庭が多いことから、多言語版のレシピも北上飯田保育園が中心となって作成し、参加者が持ち帰ることができた。

今年は同じような環境にある小学校や学区の中学校とも連携して、PTAと協力して幼保小中で食育について一緒に考える機会を設定した。

3 成果と課題

《成果》

- ◇学びの連続性を大切にするために、読書活動について一緒に取り組むことができた。
- ◇地域の特色から、安心して小学校に入学して来られるよう、小学校施設を幼稚園・保育園の行事に活用できるようにした。
- ◇年齢や発達段階に合わせた絵本を共有することができた。
- ◇子どもの学びの連続性を意識し、新学期がスタートする前から、連携して、幼稚園・保育園・小学校の担当者が新1年生に進学する子どもの情報交換を行うことができた。
- ◇保護者やボランティアとの連携ができた。
- ◇委員会の子どもの発案から、新しい交流活動ができ、子どもたちの自信につながった。
- ◇幼稚園や保育園の実態を考慮して、スタートカリキュラムの改善を図ることができた。

《課題》

- ◇幼稚園、保育園、小学校とも職員の仕事が多く、日常的に情報交換が出来る場と時間の確保が難しい
- ◇年間通して連携を図ろうとすると、1校5園の連携を考えると、カリキュラムの関係で、小学生が各園に行つての交流がもち難い。
- ◇幼保小の連携担当者が毎年交代することがないよう、校務分掌上の工夫が必要になる。